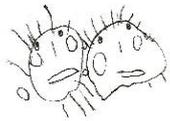


いっぽ だより



H29年度 No. 11

はじめのいっぽ弥生
平成30年3月10日

小鳥のさえずりに春の気配を感じていた矢先、暴風雪や冠水などで帯広市内の小学校が臨時休校となり、いっぽでも受け入れ態勢を変更させていただきました。ご協力ありがとうございます。また個別面談期間につきましても、お忙しい中ご協力ありがとうございます。今後も、子どもたち一人ひとりに寄り添いながら支援を続けて参ります。



○親子でいっぽ、楽しい時間をありがとう○



予定では、2月14日（水）が、今年度最後の『親子でいっぽ』でした。

完成したばかりの年間ムービーを鑑賞し、一年間を振り返りながらの茶話会、その後、昼食はみんなで手巻き寿司を食べましょう…という導入でスタートし、時間はあっという間に過ぎていきました。

茶話会を終え、昼食の準備に入ろうとすると、H君のお母さんがあらたまった雰囲気と言いました。

「先生、『親子でいっぽ』が今回で終わってしまうのは寂しすぎます。今後も続けられる方法はないでしょうか…。」

他のお母さんたちも、全買わずいています。

一か月に一度の『親子でいっぽ』の時間は、お母さんたちの心のよりどころになっていたんだ…。そう思うと、涙が出るほど嬉しかったです。

居心地のいい空間で、子育ての悩みや成長の喜びを共有し、お互いに元気をもらい、再び新鮮な気持ちで育児ができる。退所した子も含め、今後、そんなステキな場所づくりをしていきたい…。私たちの夢も大きく膨らんでいます。

○今後の予定○

3月14日（水）	親子でいっぽ
3月24日（土）	春休み開始
3月26日（月）～3月31日（土）	年度末感謝週間
3月30日（金）	オマチマン音楽コンサート

療育シーン（午前&幼児編）



リトミック（音楽遊び）もすっかり定着し、ひろみ先生が来ると、いそいそと席につく子どもたち。音符やリズムを学習するだけでなく、「話を聞く」「模倣をする」「順番を守る」「仲間と一体感を楽しむ」など、あらゆるコミュニケーション能力が高まり、今では、大人が介入しなくても、子どもだけで仲良く遊び、深い信頼関係が築かれている午前中の仲間です。



「耳の長い動物、なーんだ？」「ウサギ！」「ウサギさんの好きな食べ物、なーんだ？」「ニンジン！」ぴんぽーん♪ 「バナナの好きな動物、なーんだ？」みんなで手をあげ、「はいーい！」あれれ？おサルさんではなく、私だったの？…と、大笑いしながら、絵合わせパズル完成！遊びを通しての知育活動を楽しみ、言語獲得の他、有意義な時間を過ごしています。朝や昼食後には、タオルを干したり、食器をふくことも定着し、競うようにして手伝ってくれます。



「大きなかぶ」の絵本を読んだ後、「外遊びするよ～」というスタッフが声をかけると、「お外にも、かぶはあるかな？」とS君。よーし、探してみよう！ボールをかぶに見立てて、みんなで「うんとこしょ、どっこいしょ！」とかけ声をかけながら、力を合わせて掘り出しました。最後は、お友だちが乗ったソリを、みんなで「うんとこしょ！」絵本の内容を理解し、ごっこ遊びに発展させるなど、著しく成長を感じるひとときでした。

療育シーン（午後&小中学生編）

○みそ造り○

みそ造りは、毎年続けている大切な行事です。今回は、慈光学園で収穫された無農薬の大豆を使用しました。

みそ造りの一週間ほど前から、生大豆を水につけて観察。数日経つと、いくつかの豆から、小さな芽が出てきました。「先生、芽が出てきたー！」と大歓声。「あ、本当だ！」「どうして芽が出るのかな？」「生きているからだよ」「そうか、大豆も生きているんだね」…と、食べ物にも「いのち」があることを事前に学習しました。



当日は、じっくり煮た豆をすりばちでつぶす人、塩と麴（こうじ）を混ぜる人など、一人ひとり役割を持って作業を進めました。すりこぎを使う時は、優しく、ていねいに…。息を合わせて、まるで熟練の職人のようです。



勝毎の記者さんも取材に来て、みんなが真剣に取り組む姿に感動し、記事にしてくれました。

H30:2.27
十勝毎日新聞より

大豆つぶし奮闘
児童がみそ造り
はじめのいっぽ

児童発達支援や放課後等
デイサービス事業を手掛ける「NPO法人はじめのいっぽ」は、石橋わか子代表、帯広に通う児童・生徒らが24日、同施設でみそ造りを体験した。障害者施設普及慈光学園の利用者が育てた無農薬の大豆をもらい、自分たちが給食などで食べるみそを任じた。

はじめのいっぽは、3〜14歳の46人が通い、自然と触れ合ったり、友達と遊んだりする活動プログラムの中で笑顔で過ごしていた。

みそ造りは食育のために毎年行われ、この日は煮立てた大豆を自分たちでつぶし、こうじや塩と混ぜ合わせる「仕込み」を体験した。

子どもたちは昼食に、昨年仕込んだみそを使った豚汁を食べ、大豆の「命」を口にするところまで体験した。（奥野秀康）

自分たちが食べるみそを仕込む子どもたち

石橋代表から「大豆もちゃんと生きています。これがおみそになって、皆の元気になりましょう」と説明を受け、作業を開始。参加した戸成しずさん（11）は「大豆をつぶすのが難しかった」と大変さを語りながらも、笑顔をみせた。

◎夢マップ、作成中!◎

「春休みに、JRの旅をしよう」という計画を立て、帯広駅まで時刻表を調べに行ったときのこと。子どもたちの目に飛び込んできたのは、数々の旅行のパンフレットです。中でもひとときわ心をつかんだのが、東京ディズニーランドの案内です。

パンフレットをいくつか持ち帰り、「先生、ディズニーランドに連れて行ってください!」とお願いする子どもたち。

じゃあ、まずは今思っていることを、絵や言葉にして表現してみよう! 目標を立てて努力すれば、夢はかならずかなうよ!



…ということで、子どもたちは現在、自分だけの「夢マップ」づくりに熱中しています。ディズニーランド旅行にとどまらず、沖縄で魚つりをしたいという子や、大きな家を建てたいという子、みんなで新幹線に乗りたいという夢を書く子もいました。

「わかこ先生の夢はな〜に?」と聞かれたとき、「共生型というものを、どう説明しよう?」と、すこし躊躇(ちゅうちょ)していると、「わかった! 子どもたちと、ずーっと一緒に暮らしたいんでしょ!」ピンポン♪お見通しの子どもたちでした。



そんな折、藤丸で行われた中学生による展示即売会に行き、先輩たちが自分で作ったものを販売する姿を見てきた他、札内東中学校の吹奏楽部の演奏を聴き、演奏体験もしてきました。すごいなあ…あこがれの気持ちと共に、自分たちの将来について、具体的なイメージがわいたようです。

——かげの声——

夢マップ作りをきっかけに自分の将来について考えるようになり、10人以上のお友だちが「将来は、いっばの先生になる」と語っています。なんとも嬉しい悲鳴です。

夢を実現するには、日々の生活の積み重ねが大切。それぞれの夢をかなえるために、どんなことをすればいいかな? 時間をかけ、伝えていきたいと思います。

大人も子どもも、夢に向かってがんばろう! エイエイオー!

◎まわり将棋が、大ブームです◎



まわり将棋とは、歩兵（ふひょう）の駒からスタートし、すごろくのように縦横9マスの将棋盤の外周を進み、一周するごとに少しずつ位の高い駒へと進化していき、最終的に王将になってゴールする…という遊びです。

1、2、3、4、5…1マスごとに声を出し、「やったあ、102マス進めるよ！」「ぎゃー！20バックだ〜」と一喜一憂。進んだり後退したりして、小さな盤と駒の行方にクギ付けの子どもたち。

ドラマティックな展開をみせる将棋遊びは、勝負がつくまで数十分もの時間がかかることもあります。集中力を高め、足し算や引き算など数の概念を学び、指先を刺激し、仲間とのコミュニケーション能力の向上にもつながる…。最高の遊びだと実感すると同時に、将棋を考え出した日本の先人たちの知恵は、見事だなあ〜と感じます。

◎遊びの大切さ◎



「体力づくりだ〜」と、はりきって連結したソリを引っばる男子チーム。いつのまに、こんなに足腰が強くなっていたんだなあ…と感心します。また冬季オリンピックの影響もあり、ソリ山がジャンプ台に進化し、秘密基地によじ登り、雪の中へダイブしたり、現在はロープ渡りやターザンごっこに夢中です！

遊びを考え出す師匠（指導員）と弟子（子ども）たち、今後はどんな展開になるか、乞うご期待！

今年度も、あと半月となりました。4月からは幼稚園や保育園、小学校、中学校と、それぞれ新しい生活の場へと踏み出すお友だちがいます。慣れない環境に戸惑うこともあると思いますが、「だいじょうぶ、だいじょうぶ」。自信をもって、歩んでいこうね！